

## 女性医師の窓

## 同調圧力と子育て

松原病院 中本 理和

先日ある研究会で、小児科医や学校の先生や社会学者の方々のお話を伺う機会がありました。そこで話題になったのが日本社会における同調圧力です。

同調圧力とは、みんなと同じであることを強要する目に見えない力のことで、目立ってはいけなくて常に横並びでいなければならない、そして『周りからどう見られているか』ということを経準に行動しなければなりません。こんな変な圧力は日本にしかないと思いますが、これに苦しめられているお母さんや子どもが意外に多いということが皆さんのお話を聞いていてわかりました。“公園デビュー”や“いじめ”など様々な問題がここから派生しているようでした。

でも私自身は、育児の時に同調圧力にそれほど苦しめられたという覚えがありません。たぶん育児の最初の時期をアメリカで過ごしたためかもしれません。

私は夫の留学に伴い、1994年から3年間アメリカのサンディエゴに滞在しました。ちょうど上の子が生まれたばかりの頃で、2年目に下の子も生まれました。その頃サンディエゴには世界各国から研究者が留学してきており、色々な国の子育てを見ることができました。

まず子どもの名付け方がとても素敵でした。アメリカ人メアリーの二人の娘はメリッサとモニカで、親子で頭文字をMでそろえてありました。スイス人の子ルチア(光)に妹が生まれたり、オーロラと名づけていました。イラン人マハタブの息子の名はシャイアンでした。ブラジル人の女医さんは何人も子どもを流産したそうで、やっと生まれた女の子の名はリナータ(再生)でした。

うちの近くの公園にはそんなお母さん方が子どもを連れて遊びに来ていましたが、どこの国のお母さんも決して群れてはいませんでした。群れるのはインド人と日本人のお母さんだけでした。それ以外の国のお母さんは、ひとりで公園に来てしばらく子どもを遊ばせては帰っていきます。知り合いを見つけても、日本人のように走り寄って行ったりしません。子どもがそちらの方に行ったときに合わせて1、2分話するくらいで、またひとりに戻ります。

お母さん方の公園に来る目的は、子どもの体力作りと社会ルールを教えることです。友だち作りは直接的ではありません。子どもが他の子と接触したら、それをルールを教える好機と捉え「おもちゃを借りる時はちゃんと返してね」などと子どもに話しますが、その子と友だちになるかどうかは、子ども次第です。

とにかく日本人のお母さんは友だち作りに必死になります。また『周りにどう思われているか』を経準に行動するように子どもに教え、「みんなに変だって思われるわよ!」を殺し文句にします。

でもサンディエゴの諸外国のお母さんたちは『周り』や『みんな』ではなく、もっと別なものを基準にすえて子どもに教えていました。それは漠然とした相対的なものではなく、絶対的なもの、『神』や『お天道さま』といわれるものだったと思います。そして「お天道さまが見ているから、悪いことはしてはいけない。」「みんなが敵になると、神さまはあなたを守ってくれるから大丈夫。」と教えていました。

私は宗教と信仰とは別の問題であると考えますが、現在の日本の教育からは宗教ばかりでなく信仰もご法度になっているようにみえます。この経緯には歴史や政治も絡んで複雑で重大な事情があったことと思いますが、確固たる生き方を日本人から奪ったかもしれないと思うときもあります。